


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成28年11月15日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

|  |  |      |     |   |
|--|--|------|-----|---|
| 受付番号   | 第 1 号  | 質問議員 | 12番 | 渡 辺 良 孝  |
| 件 名  | 1.スマート IC 設置に伴う幹線道路構想の再構築を<br>2.県道729号山北山中湖線計画の復活を |      |     |   |
| 要 旨  |  |      |     |   |
| <p>1. 平成32年度(2020年度)に供用開始予定の、新東名高速道路の(仮)山北スマートインターチェンジの設置は、町を挙げて取り組んだ要望活動により悲願が達成できたことと思う。このスマートインターチェンジの設置は、地域住民の利便性は当然ながら、神奈川・静岡・山梨の三県の稜線にかかる当町にとっては、広域的な視点にたった道路構想が必要ではないか。神奈川県内を見てもここで圏央道の主要部分がつながり、一部を残してはいるものの幹線道路構想が県西部に向いてくることを想定する識者の話もある。県道や国道としての路線採択がされれば、地元の財政負担はないことから、将来の県・国の道路構想に絡むよう、スマートインターチェンジを基軸とした道路構想を構築していくべきと思い質問をする。</p> <p>(1) 広域交通拠点整備計画調査研究会の現状はどうか<br/>町では平成12年度から、近隣2市6町2村で「広域交通拠点整備計画調査研究会」を開催し、神奈川県西部と山梨県東部を結ぶ路線について調査研究を進め、平成19年5月に中期的な計画の作成に当たっての優先度の高い政策として、小田原甲府線の必要性を国土交通省へ回答をしている。このことについては相当の時間をかけて調査研究をしてきたと思うが、現在その組織の動きはどうか。</p> <p>(2) 小田原甲府線構想の再構築を<br/>私は平成24年12月議会で(仮)小田原甲府線整備構想についての一般質問を行った。その時の町長の答弁は、「事業採択には費用対効果を含め、国の財政が厳しいなかで困難な状況にある。この事業は道志村からの協力要請で調査が開始されたもので、現在道志村では山梨県側の推進の動きが止まっている状況である。山北町5次総合計画の策定に当たっては、道志村の考えを見きわめた上で慎重に判断していく」。との答弁</p> |  |      |     |   |

であった。

あれから4年経過するなか道志村では、平成26年11月に、富士山噴火、東海沖地震等の緊急時に備え、県道都留道志線の路線整備を図るため「主要地方道都留道志線道坂トンネル建設期成同盟会」を立ち上げ、都留市方面の連携の強化を進めている。

当町にスマートインターチェンジの設置が決まったことにより、幹線道路を取り巻く路線計画には大きな期待が寄せられると思う。町の重要な観光資源である「西丹沢」の観光はもとより、静岡・山梨両県に絡めた広域的な防災対策からも、小田原甲府線構想を再構築すべきではないか。町長の考えを伺う。

## 2. 県道729号山北山中湖線計画の復活を

県道729号山北山中湖線は、実現が期待され、第4次総合計画までは位置づけされていた。しかし、第5次総合計画での具体的な計画はなくなっている。世附川上流の浅瀬から先は林野庁の管理下でも荒れ放題であった。しかし、ここで林野庁が林道改修を積極的進めてきたことは幹線林道として、山中湖方面への道が開けてきたのではないか。特に、この路線は神奈川・山梨両県をまたがる県道として認定されていることから、スマートインターチェンジに絡めて、山梨県への幹線路線構想を復活させるべきと思うが。